

令和2年度 業務実績報告書

(第3期中期計画・第2事業年度)

令和3年6月



地方独立行政法人 静岡県立病院機構

目 次

I 機構の概要（令和2年4月1日現在）

1	名 称	1
2	所 在 地	1
3	法人の設立年月日	1
4	設 立 団 体	1
5	目 的	1
6	業 務	1
7	資本金の額	1
8	代表者の役職氏名	1
9	役 員	2
10	組 織 図	2
11	法人が運営する病院の概要	3

II 当該事業年度における業務実績報告

1	対 象 期 間	5
2	業務実績全般	5
	（1）機構全体	5
	（2）総合病院	15
	（3）こころの医療センター	16
	（4）こども病院	17
3	県民に対して提供する医療サービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するため にとるべき措置	18
	（1）医療の提供	18
	（2）医療従事者の確保及び質の向上	23
	（3）医療に関する調査及び研究	24
	（4）医療に関する地域への支援	27
	（5）災害等における医療救護	28
4	業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置	28
	（1）効率的な業務運営体制の強化	28
	（2）事務部門の専門性の向上	29
	（3）収益の確保と費用の節減	29
5	項目別実績	31
	（参考）用語解説	64

【数値の表記方法について】

この報告書内の数値は表示単位未満を四捨五入のため、各項目の和と総計が一致しない場合がある。



静岡県立総合病院



地方独立行政法人 静岡県立病院機構

Shizuoka Prefectural Hospital Organization

ともにつくる 信頼と安心の医療

静岡県における保健医療施策として求められる高度又は特殊な医療の提供、地域医療の支援等を行うことにより、県内医療水準の向上を図り、もって県民の健康の確保及び増進に寄与することを目的とする



静岡県立こころの医療センター



静岡県立こども病院

I 機構の概要 (令和2年4月1日現在)

1 名称

地方独立行政法人静岡県立病院機構

2 所在地

静岡市葵区北安東四丁目 27 番 1 号

3 法人の設立年月日

平成 21 年 4 月 1 日

4 設立団体

静岡県

5 目的

静岡県における保健医療施策として求められる高度又は特殊な医療の提供、地域医療の支援等を行うことにより、県内医療水準の向上を図り、もって県民の健康の確保及び増進に寄与する。

6 業務

(1) 病院の名称及び所在地

名 称	所 在 地
静岡県立総合病院	静岡市葵区北安東
静岡県立こころの医療センター	静岡市葵区与一
静岡県立こども病院	静岡市葵区漆山

(2) 業務の範囲

- ・医療を提供すること。
- ・医療に関する調査及び研究を行うこと。
- ・医療に関する技術者の研修を行うこと。
- ・医療に関する地域への支援を行うこと。
- ・災害等における医療救護を行うこと。
- ・及び上記の附帯業務。

7 資本金の額

6, 8 2 2, 7 3 3, 4 6 9 円

8 代表者の役職氏名

理事長 田 中 一 成

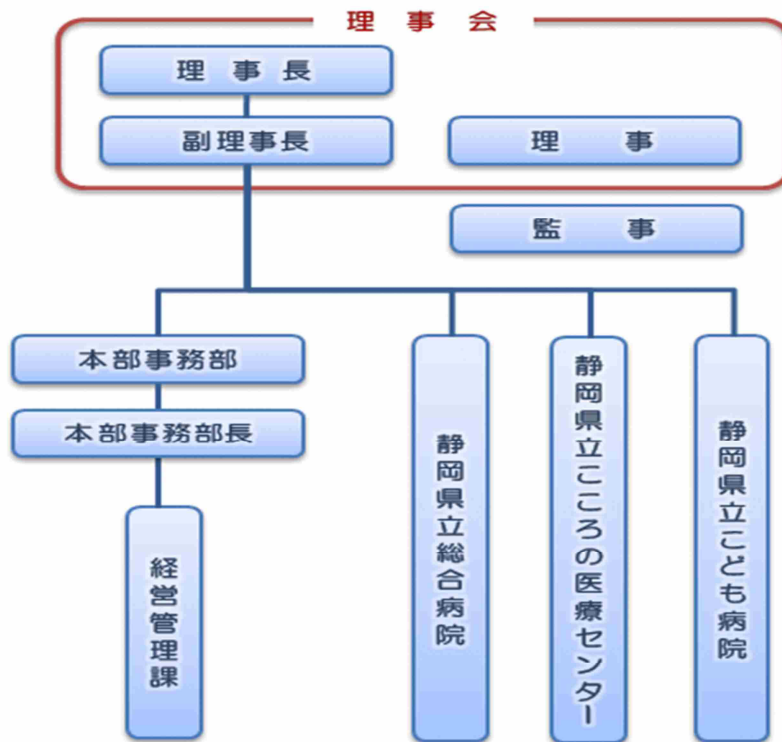
9 役 員

(令和2年4月1日現在)

役 員 名	区 分	氏 名
理 事 長	常 勤	田 中 一 成
副 理 事 長	常 勤	山 口 重 則
理 事	常 勤	村 上 直 人
理 事	常 勤	坂 本 喜 三 郎
理 事	非 常 勤	椎 名 正 樹
理 事	非 常 勤	中 村 彰 宏
理 事	非 常 勤	柏 崎 順 子
理 事	非 常 勤	星 野 希 代 絵
監 事	非 常 勤	齋 藤 安 彦
監 事	非 常 勤	高 橋 純 子

(定款に定めた定数 理事長1名・副理事長1名・理事7名以内・監事2名)

10 組 織 図



○ 全職員数 (令和2年4月1日現在、現員)

医 師 ※	444名
看 護 師	1,398名
医 療 技 術	347名
事 務 ほ か	133名
計	2,322名

※職員数には、アソシエイトを含む。また、医師には歯科医師7名、自治医大初期研修医5名、へき地指定公立病院派遣医2名、有期職員医師148名を含む。

※職員の増減状況は、14ページ参照。

11 法人が運営する病院の概要

(1) 病院の名称・所在地等

(令和2年4月1日現在)

区分	地方独立行政法人 静岡県立病院機構		
病院名	総合病院	こころの医療センター	こども病院
所在地	静岡市葵区北安東 4丁目27-1	静岡市葵区与一 4丁目1-1	静岡市葵区漆山860番地
開設年月日	昭和58年2月1日	昭和31年11月1日	昭和52年4月1日
診療科 (医療法)	内科、救急科、心療内科、精神科、循環器内科、心臓血管外科、腎臓内科、泌尿器科、糖尿病・内分泌内科、脳神経内科、脳神経外科、消化器内科、消化器外科、呼吸器内科、呼吸器外科、産婦人科、乳腺外科、小児科、整形外科、リハビリテーション科、心臓リハビリテーション科、眼科、頭頸部・耳鼻いんこう科、血液内科、皮膚科、形成外科、歯科口腔外科、麻酔科、放射線科、病理診断科、腫瘍内科	精神科、内科、外科、歯科	小児科、小児救急科、新生児小児科、血液・腫瘍内科、内分泌・代謝内科、腎臓内科、アレルギー科、神経内科、循環器内科、皮膚科、小児外科、消化器外科、呼吸器外科、心臓血管外科、脳神経外科、整形外科、形成外科、耳鼻いんこう科、泌尿器科、眼科、歯科、麻酔科、放射線科、産科、精神科、児童精神科、臨床検査科、病理診断科、リハビリテーション科
	31科	4科	29科
許可病床数 (2年度)	一般 662床 結核 50床	精神 280床 (稼働172床)	一般 243床 (稼働235床) 精神 36床
年間延患者数 (2年度)	入院 203,298人 外来 425,092人	入院 53,246人 外来 37,285人	入院 65,681人 外来 103,773人
理念	信頼し安心できる質の高い全人的医療を行います	安全・良質・優しいこころの医療を、いつでもどこでも誰にでも	私たちは、すべての子どもと家族のために、安心と信頼の医療を行います
備考	昭和23年6月 中央病院 昭和33年3月 富士見病院	「養心荘」 平成9年4月1日名称変更	

※昭和39年4月1日 中央病院、富士見病院、養心荘の3病院で病院事業会計開始。

(2) 施設状況

(令和2年4月1日現在)

区分	病棟		許可 病床数	内 容
総 合	本館	3A	40	産婦人科、小児科（新生児）、消化器外科、病院管理ベッド
		3B	36	小児科、頭頸部・耳鼻いんこう科、救命救急科、形成外科、病院管理ベッド
		3C	26	血液内科
		4A	47	総合内科、皮膚科、整形外科
		4B	47	腎臓内科、泌尿器科、病院管理ベッド
		4D	—	
		5A	47	消化器外科、泌尿器科、病院管理ベッド
		5B	47	消化器内科、消化器外科、腫瘍内科
		5D	—	
		6A	40	整形外科、消化器内科、眼科、病院管理ベッド
		6B	50	結核
		6C	49	呼吸器内科、糖尿病・内分泌内科、病院管理ベッド
		6D	39	呼吸器内科、呼吸器外科、歯科口腔外科、放射線科、病院管理ベッド
	北館	3E	41	整形外科、脳神経内科、救急科
		4E	34	消化器外科、乳腺外科、形成外科、循環器内科、病院管理ベッド
		5E	28	緩和医療科、消化器内科
	循環器病 センター	1G	12	救命救急科
3G		14	集中治療室（ICU）、冠疾患集中治療室（CCU）	
4G		47	循環器内科、心臓血管外科	
5G		48	脳神経内科、脳神経外科、病院管理ベッド	
先端医学棟	4M	20	高度治療室（HCU）	
	計		712	（稼働712床）
こ こ ろ	北1		42	医療観察法12床、慢性重症30床
	北2		45	救急
	北3		54	（休棟）
	南1		42	回復期
	南2		43	救急
	南3		54	（休棟）
		計		280
こ ど も	北2		36	新生児集中治療室（NICU）、回復治療室（GCU）
	北3		30	内科系乳幼児
	北4		28	感染観察
	北5		28	内科系幼児学童
	西2		24	産科、母体胎児集中治療室（MFICU）
	西3		25	循環器科
	CCU		12	循環器集中治療室（CCU）
	PICU		12	小児集中治療室（PICU）
	西6		48	外科系
	東2		36	こころの診療科
	計		279	（稼働271床）

II 当該事業年度における業務実績報告

1 対象期間

令和2年4月1日から令和3年3月31日までの1年間
(中期計画の期間 平成31年4月1日から令和6年3月31日までの5年間)

2 業務実績全般

(1) 機構全体

ア 総括

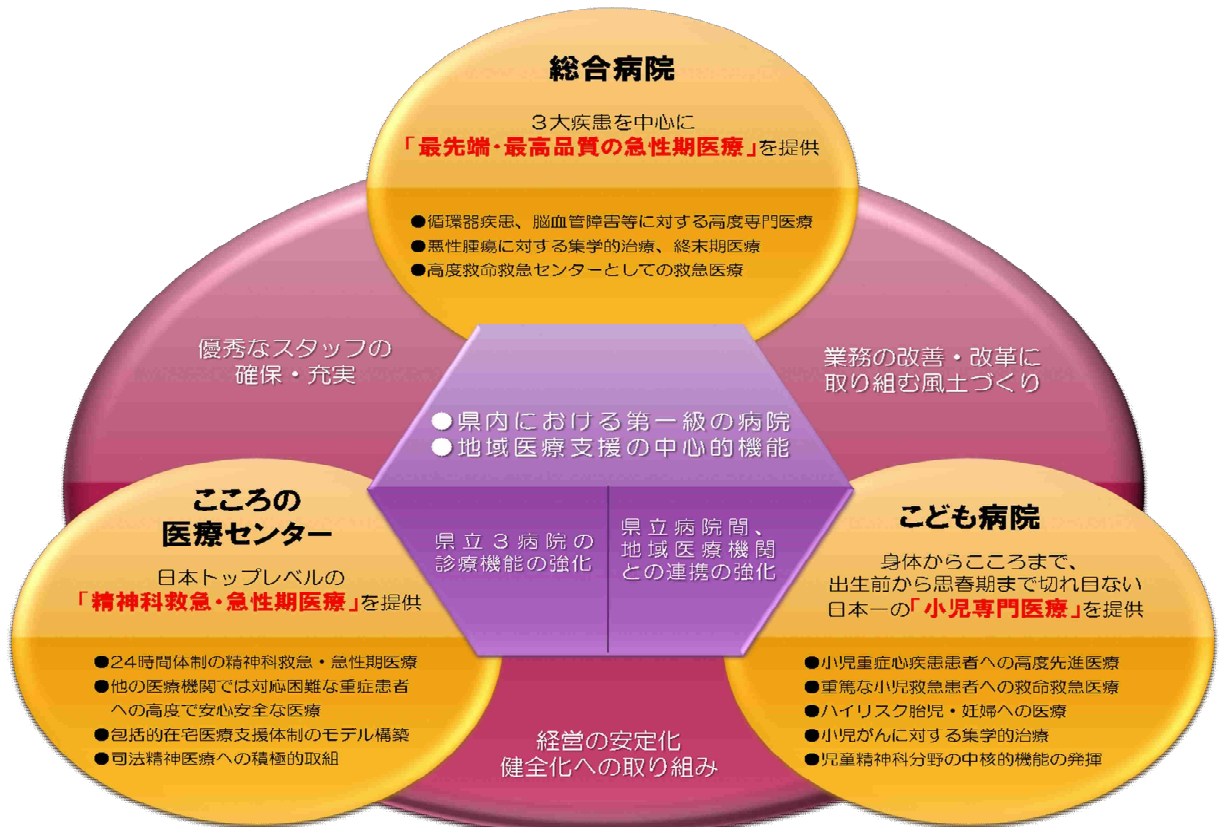
静岡県立病院機構は、高度・専門・特殊医療や救急・急性期医療等の分野において第一級の病院であること及び地域医療を確保するための支援の中心的機能を果たすため、地方独立行政法人の特徴である機動性や効率性等を發揮した病院経営に取り組んでいる。

令和2年度の経営状況(3病院計)は、新型コロナウイルス感染症(SARS-CoV-2、以下「新型コロナウイルス感染症」という。)の影響もあり、入院患者数及び外来患者数も年度計画を下回った。

収支は、新型コロナウイルス感染症の影響により、医業収益が大幅に悪化したものの、空床補償等の各種補助金により適切に補填が行われた結果、経常利益が706百万円(経常収支比率101.5%)、当期純利益が540百万円となり、地方独立行政法人化後12年連続で黒字決算を達成した。

引き続き、本機構は、新型コロナウイルス感染症への対応はしつつ、救急医療等を始めとした高度で専門的な医療の提供及び地域医療の支援に重点を置くとともに、業務運営の改善及び効率化を進め、県民に信頼される「第一級の病院」として、本県医療の確保と向上に貢献していく。

県立病院機構が目指す病院像



イ 業務実績

(ア) 入院診療

- ・ 総合病院は、年度計画（以下「計画」）を下回る延患者数(▲31,802人)であったが、患者1人1日当たり入院単価（以下、入院単価：入院収益÷年延入院患者数）は計画を上回った(+4,831円)。
- ・ こころの医療センターは、計画を下回る延患者数(▲2,252人)となり、入院単価も計画を下回った（▲288円）。
- ・ こども病院は、計画を下回る延患者数（▲11,531人）であったが、入院単価は計画を上回った（+6,145円）。

(イ) 外来診療

- ・ 総合病院は、計画を下回る延患者数（▲46,669人）であったが、患者1人1日当たり外来単価（以下、外来単価：外来収益÷年延外来患者数）は計画を上回った（+1,287円）。
- ・ こころの医療センター病院は、計画を下回る延患者数(▲3,037人)となり、外来単価も計画を下回った（▲103円）。
- ・ こども病院は、計画を下回る延患者数（▲10,143人）であったが、外来単価は計画を上回った（+2,005円）。

○ 令和2年度 業務量及び単価等実績（税込）

区 分		総 合	こころ	こども	合計
入 院	入院延患者数(人)	203,298 (235,100)	53,246 (55,498)	65,681 (77,212)	322,225 (367,810)
	病床稼働率(%)	一般84.8 (一般94.0)	84.8 (88.4)	66.4 (78.1)	80.2 (89.2)
	入院患者1人 1日当たり単価(円)	86,891 (82,060)	24,814 (25,102)	102,820 (96,675)	79,880 (76,534)
外 来	外来延患者数(人)	425,092 (471,761)	37,285 (40,322)	103,773 (113,916)	566,150 (625,999)
	外来患者1人 1日当たり単価(円)	23,331 (22,044)	6,420 (6,523)	15,550 (13,545)	20,791 (19,497)

※（ ）書きは、当初計画数値を示す。

※患者1人1日当たり単価は税込金額（調定額ベースで算定）。

※病床稼働率は、総合 一般稼働病床、こころ172床、こども271床で算定。

<参考資料>

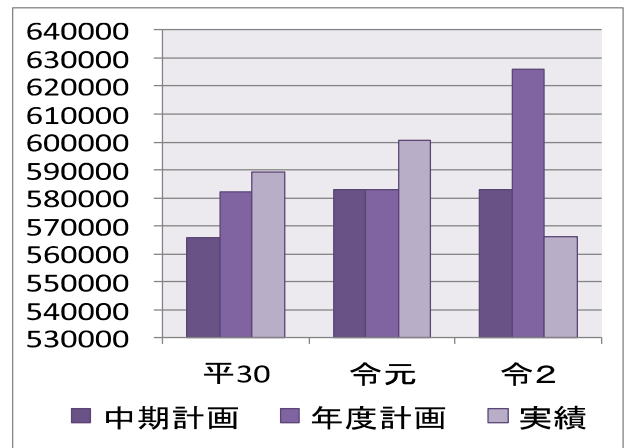
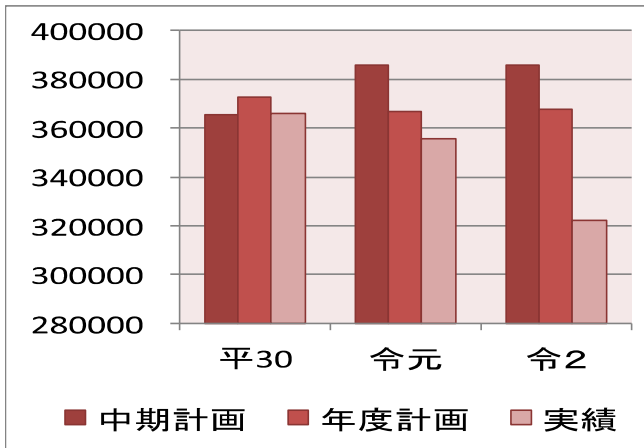
○患者数の推移 (30年度実績～2年度)

入院延患者数 (3病院計)

(単位：人)

外来延患者数 (3病院計)

(単位：人)



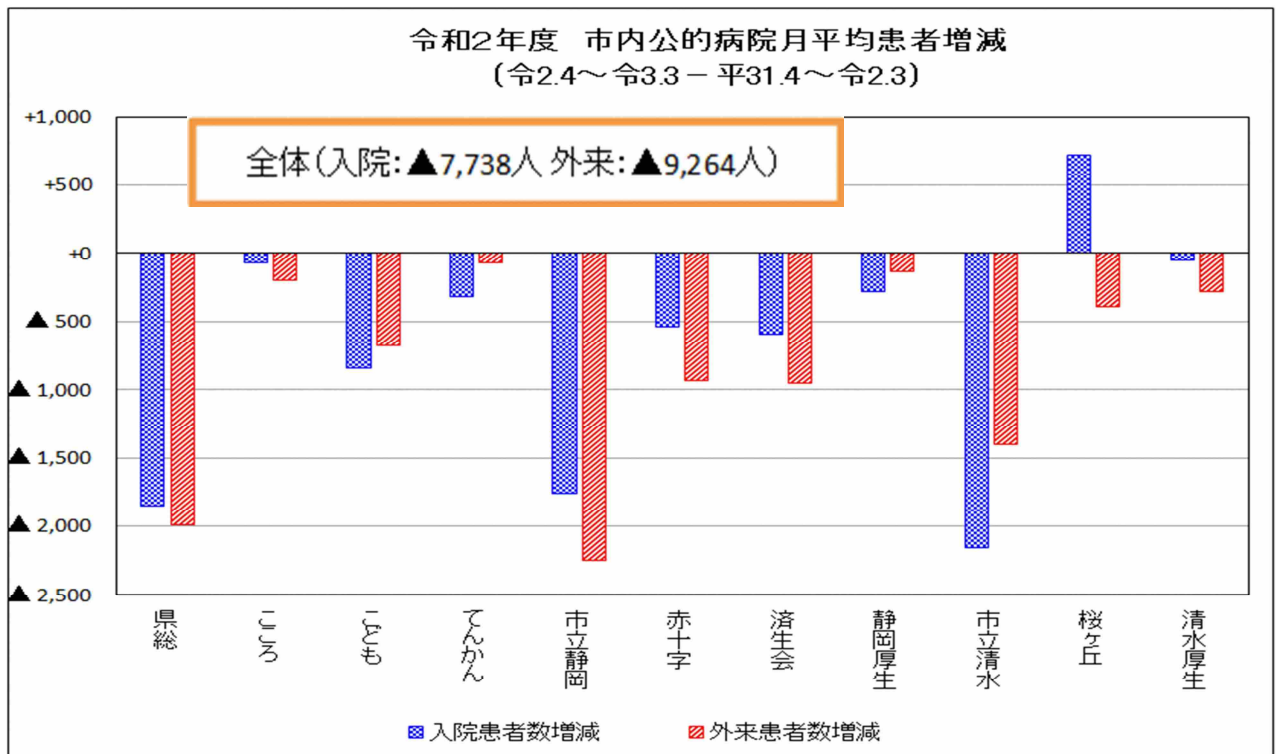
- 令和2年度は入院延患者数、外来延患者数ともに中期計画、年度計画を下回った。

○市内公的病院患者動向 (月平均延患者数：令2ー令元 比較)

(単位：人)

区分		県総	こころ	こども	てんかん	市立静岡	赤十字	済生会	静岡厚生	市立清水	桜ヶ丘	清水厚生	合計
入院	令2	16,942	4,437	5,473	8,633	11,973	12,333	13,617	5,209	8,644	3,536	3,562	94,359
	令元	18,800	4,503	6,311	8,954	13,738	12,869	14,207	5,489	10,800	2,816	3,608	102,096
	差	▲1,858	▲66	▲838	▲321	▲1,765	▲536	▲591	▲281	▲2,156	+720	▲46	▲7,738
	率	▲9.9(%)	▲1.5(%)	▲13.3(%)	▲3.6(%)	▲12.9(%)	▲4.2(%)	▲4.2(%)	▲5.1(%)	▲20.0(%)	+25.6(%)	▲1.3(%)	▲7.6(%)
外来	令2	35,424	3,107	8,648	2,817	20,977	15,400	20,899	6,876	13,703	4,907	6,762	139,520
	令元	37,412	3,304	9,323	2,882	23,231	16,330	21,853	7,008	15,106	5,294	7,041	148,784
	差	▲1,988	▲197	▲675	▲66	▲2,254	▲930	▲954	▲132	▲1,404	▲387	▲279	▲9,264
	率	▲5.3(%)	▲5.9(%)	▲7.2(%)	▲2.3(%)	▲9.7(%)	▲5.7(%)	▲4.4(%)	▲1.9(%)	▲9.3(%)	▲7.3(%)	▲4.0(%)	▲6.2(%)

- 新型コロナウイルス感染症の影響により、市内公的病院の入院延患者は全体で7.6%の減少、外来延患者数は全体で6.2%減少となった。



(ウ) 令和2年度収支実績(税込)

① 収益的収支実績(税込)

(単位:千円)

区分	款	項	最終予算額 (計画)	決算額 (実績)	増減額 (対計画)	決算額 (前年度)	増減額 (対前年)
収益	営業 収益	医業収益	39,935,754	38,077,321	▲ 1,858,433	39,778,092	▲ 1,700,771
		運営費負担金収益	6,854,612	6,853,050	▲ 1,562	6,840,818	12,232
		その他営業収益	2,118,884	2,692,956	574,072	642,005	2,050,951
		小計	48,909,250	47,623,327	▲ 1,285,923	47,260,915	362,412
	営業外 収益	運営費負担金収益	145,388	146,950	1,562	159,182	▲ 12,232
		その他営業外収益	299,711	245,806	▲ 53,905	301,630	▲ 55,824
		小計	445,099	392,756	▲ 52,343	460,812	▲ 68,056
	臨時利益	臨時利益	30,000	85,511	55,511	25,000	60,511
	計			49,384,349	48,101,594	▲ 1,282,755	47,746,727
費用	営業 費用	医業費用	48,013,725	46,315,442	▲ 1,698,283	46,301,294	14,149
		一般管理費	434,484	364,585	▲ 69,899	356,878	7,707
		小計	48,448,209	46,680,027	▲ 1,768,182	46,658,171	21,856
	営業外 費用	財務費用	268,152	259,502	▲ 8,650	285,598	▲ 26,096
		その他営業外費用	419,698	370,993	▲ 48,705	346,610	24,383
		小計	687,850	630,495	▲ 57,355	632,209	▲ 1,713
	臨時損失	臨時損失	238,949	251,897	12,948	154,800	97,097
計			49,375,008	47,562,419	▲ 1,812,589	47,445,180	117,240
経常利益			218,290	705,561	487,271	431,347	274,214
当期純利益			9,341	539,174	529,833	301,548	237,627

※ 単位未満四捨五入のため各項目の和と総計が一致しない場合がある(以下同様)。

- ・ 医業収益は、総合病院、こころの医療センター、子ども病院で入院延患者数、外来延患者数ともに計画を下回ったことなどから、計画を1,858,433千円下回ったが、医業費用についても計画を1,698,283千円下回った。また、その他営業収益は計画を574,072千円上回った。
- ・ 結果として、経常損益は705,561千円で、計画を487,271千円上回り、経常収支比率100%以上(101.5%)を達成した。
- ・ 当期純利益は539,174千円で、計画を529,833千円上回った。

② 資本的収支実績(税込)

(単位:千円)

区分	款	項	最終予算額 (計画)	決算額 (実績)	増減額 (対計画)	決算額 (前年度)	増減額 (対前年)
収入	資本 収入	長期借入金	7,515,000	3,789,000	▲3,726,000	2,371,000	1,418,000
		長期貸付金回収額	-	47,300	47,300	50,450	▲3,150
		補助金・寄附金等	329,888	354,713	24,825	8,770	345,943
		計	7,844,888	4,191,013	▲3,653,875	2,430,220	1,760,793
支出	資本 支出	建設改良費	8,025,904	4,341,528	▲3,684,376	2,423,954	1,917,575
		償還金	3,996,000	3,991,446	▲4,554	3,195,954	795,492
		長期貸付金	190,750	100,488	▲90,262	131,023	▲30,534
		計	12,212,654	8,433,463	▲3,779,191	5,750,931	2,682,532
総収支			▲4,367,766	▲4,242,450	125,316	▲3,320,711	▲921,739

- ・ 建設改良費は医療機器の更新時期の先送り等により、計画を 3,684,376 千円下回る 4,341,528 千円となった。
- ・ 補助金等については、新型コロナウイルス感染症関連補助金が増額した結果、計画を 24,825 千円上回る 354,713 千円となった。

(エ) 病院別収支実績

① 収益的収支実績 (税込)

(単位：千円)

款	項	総合	こころ	こども	法人計
営業 収益	医業収益	28,066,566	1,571,451	8,439,305	38,077,321
	運営費負担金収益	2,657,873	1,070,515	3,124,662	6,853,050
	その他営業収益	1,621,083	197,275	874,598	2,692,956
	小計	32,345,522	2,839,241	12,438,564	47,623,327
営業外 収益	運営費負担金収益	82,127	9,485	55,338	146,950
	その他営業外収益	209,718	5,728	30,359	245,806
	小計	291,845	15,213	85,697	392,756
臨時利益	臨時利益	85,511	0	0	85,511
収益計 (予算額※<計画>) (増減額)		32,722,878 (33,597,017) (▲ 874,139)	2,854,454 (2,924,822) (▲ 70,368)	12,524,261 (12,862,510) (▲ 338,249)	48,101,594 (49,384,349) (▲ 1,282,755)
営業用 費用	医業費用	31,902,355	2,481,447	11,931,640	46,315,442
	一般管理費	121,528	121,528	121,528	364,585
	小計	32,023,883	2,602,976	12,053,168	46,680,027
営業外 費用	財務費用	145,569	14,714	99,220	259,502
	その他営業外費用	271,380	11,885	87,728	370,993
	小計	416,948	26,599	186,948	630,495
臨時損失	臨時損失	212,059	3,335	36,503	251,897
費用計 (予算額※<計画>) (増減額)		32,652,890 (33,588,241) (▲ 935,351)	2,632,909 (2,924,380) (▲ 291,471)	12,276,620 (12,862,387) (▲ 585,767)	47,562,419 (49,375,008) (▲ 1,812,589)
経常利益 (予算額※<計画>) (増減額)		196,536 (181,651) (14,884)	224,880 (6,516) (218,364)	284,145 (30,123) (254,021)	705,561 (218,290) (487,270)
当期純損益 (予算額※<計画>) (増減額)		69,987 (8,775) (61,212)	221,545 (442) (221,103)	247,642 (123) (247,518)	539,174 (9,341) (529,833)

- ・ 総合病院の経常損益は 196,536 千円で、計画を 14,884 千円上回った。
- ・ こころの医療センターの経常損益は 224,880 千円で、計画を 218,364 千円上回った。
- ・ こども病院の経常損益は 284,145 千円で、計画を 254,021 千円上回った。

② 資本的収支実績 (税込)

(単位：千円)

款	項	総合	こころ	こども	本部	法人計
資本 収入	長期借入金	2,230,000	161,000	1,320,000	78,000	3,789,000
	長期貸付金回収額	32,754	3,249	11,297	0	47,300
	その他収入	108,004	1,564	245,145	0	354,713
	計	2,370,757	165,813	1,576,442	78,000	4,191,013
資本 支出	建設改良費	2,366,087	276,907	1,576,456	122,079	4,341,528
	償還金	2,528,436	520,598	942,412	0	3,991,446
	長期貸付金	69,585	6,903	24,000	0	100,488
	計	4,964,107	804,408	2,542,869	122,079	8,433,463
総 収 支	▲ 2,593,350	▲ 638,595	▲ 966,427	▲ 44,079	▲ 4,242,450	

- 令和2年度の建設改良費は4,341,528千円となった。その内訳は、3病院の器械備品等資産購入が1,715,779千円(A)、建設改良工事等が2,625,749千円(B)である。(A)の主なものとしては、総合病院でIVR対応CT併用血管撮影装置、こころの医療センターで全自動錠剤分包機、こども病院でリニアック(放射線治療装置)を整備した。(B)の主なものとしては、総合病院のリニューアル工事、こころの医療センターの受変電設備更新工事、こども病院の本館リニューアル工事等である。

また、長期貸付金100,488千円は、看護師確保対策として、当機構に就職を希望する看護学生に対して修学資金の貸付を行うほか、職員の育成及び資質向上等を目的に、職員に対し資格等の取得に必要な資金の貸付を行ったものである。

(オ) 決算指標年間実績<3病院計>

(税込)

区分	項目	当初計画	実績	増減
収 支 構 造	経常収支比率(%)	100.4	101.5	+1.1
	医業収支比率(%)	86.2	82.2	▲4.0
収 入 構 造	病床稼働率(%)	89.2	80.2	▲9.0
	入院患者1人1日当たり単価(円)	76,534	79,880	+3,346
	外来患者1人1日当たり単価(円)	19,497	20,791	+1,294
費 用 構 造	職員給与比率(%)	57.1	59.4	+2.3
	材料費比率(%)	30.7	34.2	+3.5

※患者1人1日当たり単価は、調定額ベースで算定。

※病床稼働率は、総合一般稼働病床、こころ172床、こども271床で算定。

- 収支構造の各指標は、経常収支比率が計画を1.1ポイント上回る101.5%となった。また、医業収支比率は計画を4.0ポイント下回る82.2%となった。
- 収入構造では、入院患者1人1日当たり単価は計画を3,346円上回り、外来患者1人1日当たり単価は、計画を1,294円上回った。収益確保の取り組みとしては、総合病院では、手術室の効率的な運用や入退院センターによるベッドコントロールを実施した。こころの医療センターでは、医療観察法対象患者のうち、本県以外の対象患者についても、要請に応じて積極的に受け入れる等、病床稼働率の向上に向けて取り組んだ。こども病院では、新型コロナウイルス感染症の影響があるものの、急を要する診療、高度な技術を要する手術には確実に対応した。
- 費用構造では、職員給与比率、材料費比率はそれぞれ計画比2.3ポイント増、3.5ポイント増となった。

【収支構造】

- ・ 経常収支比率 $\text{経常収益} \div \text{経常費用} \times 100$
病院が安定した経営を行うための財政基盤を確保するための指標で、適正な区分負担を前提として100%以上が望ましい。
- ・ 医業収支比率 $\text{医業収益} \div \text{医業費用} \times 100$
医業費用が医業収益によってどの程度賄われているかを示す指標で、100%以上が望ましい。

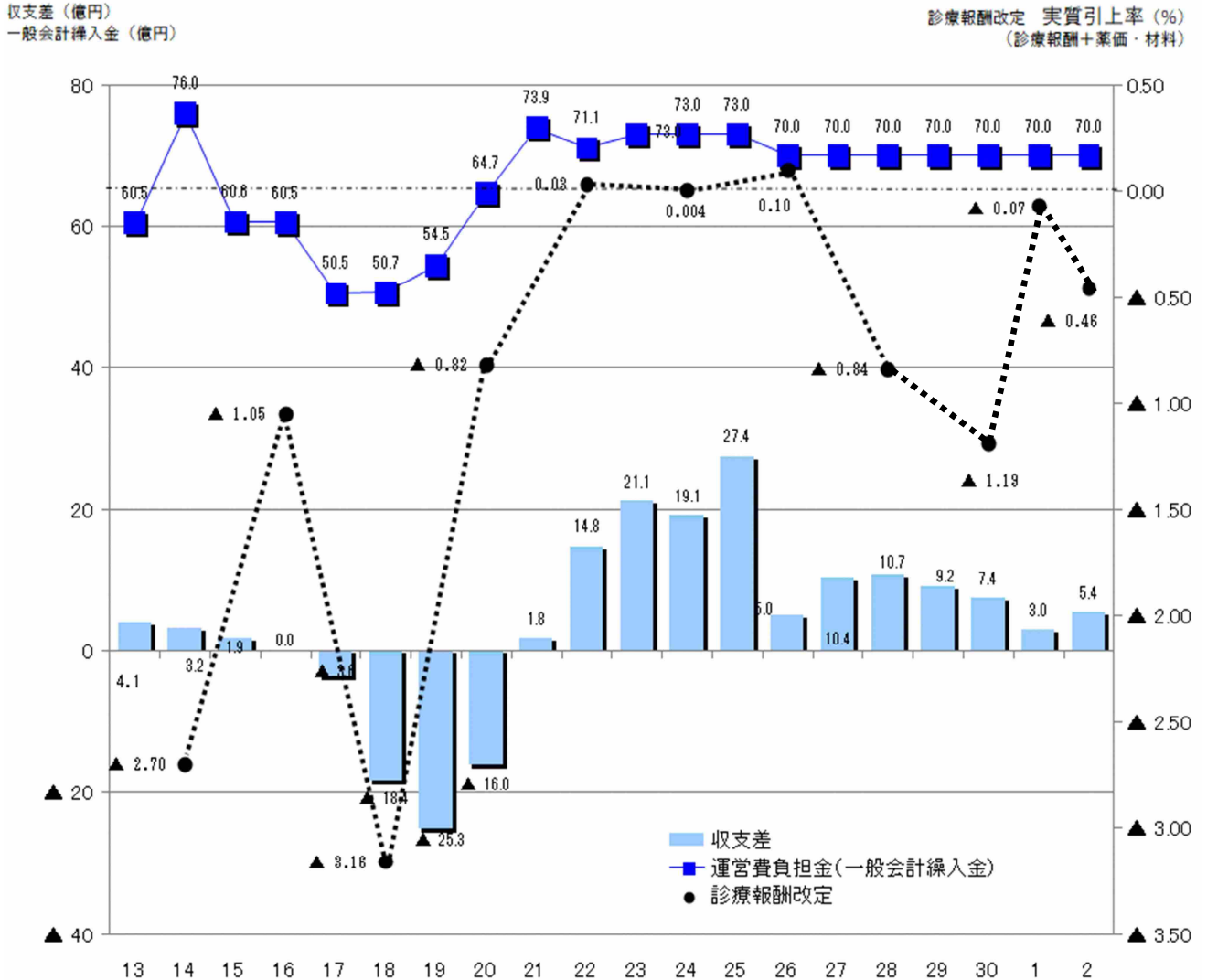
【収入構造】

- ・ 病床稼働率 $\text{年間延入院患者数} \div \text{年延病床数 (稼働病床} \times \text{歴日数)} \times 100$
病院の施設が有効に活用されているか判断する指標である。
- ・ 入院患者1人1日当たり単価 $\text{入院収益} \div \text{年延入院患者数}$
- ・ 外来患者1人1日当たり単価 $\text{外来収益} \div \text{年延外来患者数}$
病院の収入分析をするうえで基本的な指標。収入を増加させるため、患者数(量的要素)と1人当たりの収入(質的要素)が重要となる。

【費用構造】

- ・ 職員給与比率(職員給与費対医業収益比率) $\text{職員給与費} \div \text{医業収益} \times 100$
病院の職員数等が適正であるか判断する指標。職員給与費をいかに適切なものとするかが病院経営の重要なポイントである。
- ・ 材料費比率(材料費対医業収益比率) $\text{材料費} \div \text{医業収益} \times 100$
この比率が高い場合、材料費の購入価格(方法)を見直し、材料費の削減を図る必要がある。(薬品・診療材料・その他)

(カ) 決算状況の推移 (収支と繰入金(県負担金)・診療報酬の改定) (3病院計)



- ※ 平成14年度の一般会計繰入金75.98億円には、がんセンター開院準備経費分15.44億円を含む。
- ※ 平成17年度から平成19年度までは繰入金10億円を抑制(県財政事情を勘案)。
- ※ 平成21年度から地方独立行政法人へ移行したため、一般会計繰入金は運営費負担金に名称変更。
- ※ 平成24年度の診療報酬改定率は薬価部分を市場価格の下落を反映して1.375%引き下げの一方、医師の診療行為や入院料などの本体部分は1.379%引き上げた結果、実質的な改定率は+0.004%となった。
- ※ 平成26年度の診療報酬改定率は、薬価及び材料価格の改定を0.63%引き下げの一方、本体部分を0.73%引き上げた結果、全体改定率は+0.10%となった。(消費税率引上げ対応分を除いた実質改定率は▲1.26%)
- ※ 平成28年度の診療報酬改定率は、薬価及び材料価格の改定をそれぞれ1.22%、0.11%引き下げの一方、本体部分を0.49%引き上げた結果、全体改定率は▲0.84%となった。
- ※ 平成30年度の診療報酬改定率は、薬価及び材料価格の改定をそれぞれ1.65%、0.09%引き下げの一方、本体部分を0.55%引き上げた結果、全体改定率は▲1.19%となった。
- ※ 令和元年10月の診療報酬改定率は、薬価の改定を0.51%引き下げ、材料価格の改定を0.03%引上げ、本体部分を0.41%引き上げた結果、全体改定率は▲0.07%となった。
- ※ 令和2年度の診療報酬改定率は、薬価及び材料価格の改定をそれぞれ0.99%、0.02%引き下げの一方、本体部分を0.55%引き上げた結果、全体改定率は▲0.46%となった。

(キ) 職員の状況 (各年度4月1日現在)

① 正規職員

(単位：人)

区分	総合		こころ		こども		本部		計	
	令2	令3	令2	令3	令2	令3	令2	令3	令2	令3
医師	184	188	13	13	91	92	1	-	289	293
歯科医師	6	5	-	-	1	2	-	-	7	7
看護師	829	826	124	122	444	452	1	3	1,398	1,403
看護師	826	824	124	122	444	452	1	3	1,395	1,401
准看護師	3	2	-	-	-	-	-	-	3	2
医療技術	237	249	26	26	84	86	-	1	347	362
研究員	2	-	-	-	-	-	-	-	2	-
事務	59	63	12	13	28	28	32	32	131	136
計	1,317	1,331	175	174	648	660	34	36	2,174	2,201

※ アソシエイトを含む。

② 有期職員

(単位：人)

区分	総合		こころ		こども		本部		計	
	令2	令3	令2	令3	令2	令3	令2	令3	令2	令3
医師	96	99	4	6	46	50	-	-	146	155
歯科医師	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
看護師	62	61	10	10	16	18	-	-	88	89
看護師	62	61	10	10	15	17	-	-	87	88
准看護師	-	-	-	-	1	1	-	-	1	1
医療技術	24	22	3	3	15	16	-	-	42	41
研究員	12	2	-	-	-	-	-	-	12	2
事務	149	153	11	12	47	51	10	8	217	224
補助職員	83	82	9	9	30	30	1	1	123	122
計	426	419	37	40	154	165	11	9	628	633

※ 補助職員：看護助手、薬剤助手、放射線助手、検査助手等

(ク) 令和3年度職員の採用状況 (令和2年度採用試験実施状況) (令和3年3月末現在)

- ・ 看護師の採用については、定期募集を年4回、経験者募集を年9回計画し、募集を行っている。きめ細やかな対策を迅速に実施することができ、看護師採用数の確保につながった。
- ・ 人材確保のため、県内の養成校とのWeb会議や修学資金の貸与、支度金制度の実施、病院見学会の旅費の拡充(市外 最大5万円)、県内コンビニ、ショッピングモールへの看護師募集ポスター掲示を実施し、必要な看護師を採用している。(平28 136人、平29 113人、平30 113人、令元 123人、令2 102人)
- ・ また、看護学生向けに就職情報を提供する民間事業者が開催する合同就職説明会への参加や就職情報サイトへの情報掲載等を積極的に行うと伴に、看護師就職説明会において、看護学生を集めるために説明会出展の周知メールの送信、当日は、看板等の設置やノベルティの配布を行った。
- ・ 医療技術については21人(薬剤師(一般)3人、薬剤師(経験者)2人、臨床検査技師(一般)2人、臨床検査技師(経験者)2人、作業療法士(一般)3人、理学療法士(一般)1人、理学療法士(経験者)1人、栄養アソシエイト(一般)2人、言語聴覚アソシエイト(一般)1人、視能訓練士(一般)2人、臨床工学技士(一般)1人、心理療法士(経験者)1人)を確保した。
- ・ 事務については、正規職員5人、アソシエイト2人を確保した。

(単位：人)

区 分	令2試験実施 【令3採用】	令元試験実施 【令2採用】	差 引
看 護 師	102	123	▲21
事 務	7	4	3
医 療 技 術	21	26	▲5
計	130	153	▲23

※前倒し採用は試験実施年度に集計。

令和2～3年度 職員数の推移

(単位：人)

区 分	令2.4.1 現員数 a	2年度中 採用者数 b	2年度中退職者数		令3.3.31 現員数 e=a+b-c+d	令3.4.1 採用者数 f	令3.4.1 現員数 g=e-d+f	
			C	うち令3.3.31 退職者数 d				
医 師	正 規	296	11	44	31	294	37	300
	有 期	146	17	160	138	141	150	153
	計	442	28	204	169	435	187	453
看 護 師	1,398	5	98	48	1,353	98	1,403	
医 療 技 術	347	1	7	5	346	21	362	
研 究 員	2	-	2	2	2	-	-	
事 務		131	3	2	1	133	4	136
	うちプロパー	77	3	1	1	80	4	83
計	2,320	37	313	225	2,269	310	2,354	

※ アソシエイトを含む(令2 看護10人、医療技術8人、事務14人 令3 看護10人、医療技術12人、事務16人)

※ 正規医師には、歯科医師、自治医初期研修医、へき地代診医師を含む

※ 有期医師の契約は1年更新、短期間特別研修医は除く

(ケ) 補助職員(医療秘書、助手等)の配置状況(各年度4月1日現在)

(単位：人)

区分		平27	平28	平29	平30	令元	令2	令3
総合	医師事務補助	55	66	73	73	71	70	76
	看護助手	81	80	74	73	66	61	58
	コメディカル助手	17	18	18	19	22	20	23
	小計	153	164	165	165	159	151	157
こころ	医師事務補助	2	2	2	2	2	2	1
	看護助手	8	8	9	8	8	9	9
	コメディカル助手	2	2	2	2	2	2	2
	小計	12	12	13	12	13	13	12
こども	医師事務補助	18	18	18	19	19	20	19
	看護助手	21	22	21	21	25	22	21
	コメディカル助手	5	5	5	5	5	6	8
	小計	44	45	44	45	49	48	48
合計	医師事務補助	75	86	93	94	92	92	96
	看護助手	110	110	104	103	99	92	88
	コメディカル助手	24	25	25	26	29	28	33
	合計	209	221	222	223	220	212	217

(2) 総合病院

<理 念>

「信頼し安心できる質の高い全人的医療を行います」

全人的医療：身体、精神、心理、生活様式などを含めた総合的な視点から、患者さん自身の全体的な健康回復を目指す医療

<基本方針>

- 1 医療を受ける人々の立場に立ち、説明に基づく心のこもった医療を行います。
- 2 県内の中核病院として高度医療や先進的医療に取り組み、地域医療を支援します。
- 3 救急医療、災害医療、へき地医療、結核医療などの政策医療を積極的に担います。
- 4 将来の医療を担う質の高い人材を育成します。
- 5 快適な職場環境の整備と透明性の高い健全な病院運営に努めます。

<総 括>

総合病院は、県内医療機関の中核的病院として、各疾患の総合的な医療をはじめ、3大疾患（循環器疾患、脳疾患、がん疾患）に対する高度・専門医療や救急・急性期医療を提供している。

先端医学棟、循環器病センター等における最新の設備と医療機器を最大限に活用し、循環器疾患、脳疾患に対する高度・専門医療、がん疾患に対する集学的治療及び終末期医療、高度救命救急センターとしての救急医療を主要事業の三本柱として取り組んでいる。

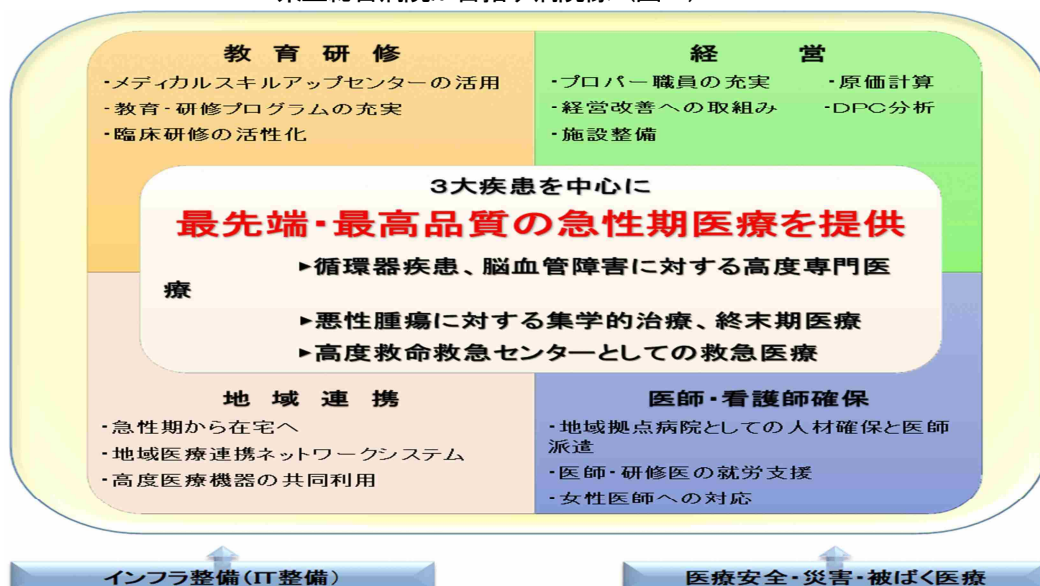
また、県内の中核的病院として、高度・専門・特殊医療を提供するため、紹介・逆紹介の推進による地域の医療機関との機能分化及び連携強化に努めている。

経営面においては、医療の高度化、手術件数増加に伴う診療材料費の増加や、化学療法実施件数増加に伴う薬品費の増加（がん治療薬：オプジーボ、アバスタチン等）に対応するため、施設基準の積極的な取得の他、平均在院日数の短縮、集中治療系病棟（ERHCU、ICU、HCU）の稼働率向上や入院料加算算定件数の増加、各診療科の稼働状況にあわせた病床再編等の経営改善に取り組んでいる。

令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、診療単価（外来・入院）は前年度実績を上回ったが、延べ患者数（外来・入院）及び診療収益（外来・入院）は前年度実績を下回った。

今後も県立総合病院が目指す病院像（図1）のとおり、県立病院としての役割を果たすべく、各種機能の強化に努める。

県立総合病院が目指す病院像（図1）



(3) こころの医療センター

<理 念>

安全・良質・優しいこころの医療を、いつでもどこでも誰にでも

<基本方針>

- 1 患者さんの人権と尊厳を守ります。
- 2 24時間365日、精神科救急医療を提供します。
- 3 最新の知識と技術を取り入れた高度専門医療を提供します。
- 4 手厚いチーム医療によって早期退院を目指します。
- 5 在宅医療とリハビリテーション、社会参加を支援します。
- 6 社会資源を開拓し、連携を強化します。
- 7 司法精神医療、災害医療などの公益医療に主体的に参加します。
- 8 社会人・組織人・医療人としての人材育成に努めます。
- 9 広い視野に立って研鑽を重ね、積極的に社会へ情報発信します。
- 10 健全で透明性の高い病院経営を目指します。

<総 括>

こころの医療センターでは、日本トップレベルの「精神科救急・急性期医療」を提供するため、「救急・急性期医療の充実」、「在宅医療の拡充」、「高度な医療技術の導入」及び「司法精神医療の充実」を重点的に推進し、目標とする精神科医療の体制整備（図2参照）に取り組んでいる。

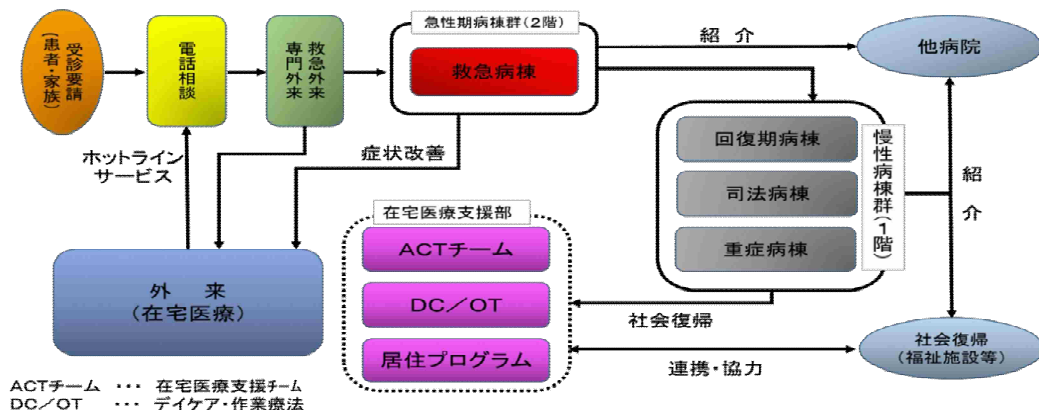
平成22年度より急性期病棟群（救急及び急性期病棟）を中心に救急・急性期患者の受け入れを行い、それを後方的に支援する慢性病棟群（回復期及び慢性重症病棟）との機能分化を進め、平成25年度には急性期病棟を救急病棟に移行する等、診療体制を強化した。平成28年度及び平成30年度に南1病棟の一部個室化を進め、救急病棟、回復期病棟における病棟間の連携強化を図り、効率的な病棟運営に努めている。

一方、精神科における医療は、「入院医療中心から地域生活中心へ」という方針が世界的趨勢であることから、在宅医療支援部門を強化し、多職種チームによる地域生活での支援体制の整備と長期入院者の退院促進に取り組んでいる。

あわせて、退院後の安定的な生活を維持し、再入院を防止することを目的に、患者に対する心理・社会的治療に積極的に取り組んでいる。

また、クロザピンや修正型電気けいれん療法（m-ECT）など、高度な医療の導入に積極的に取り組むとともに、医療観察法指定入院医療機関として安定した運営を継続するなど、県内精神医療の中核病院としての役割を果たすべく取り組んでいる。

こころの医療センター診療体制（図2）



(4) こども病院

<理 念>

「私たちは、すべての子どもと家族のために、安心と信頼の医療を行います。」

<基本方針>

「患者中心の医療サービスの継続」

〔 地域の医療機関と連携し、診断・治療が困難なこどもの患者へ
質の高い効果的な医療を提供 〕

こども病院が目指す方向 (図3)

- | | |
|------------|--------------------|
| 1 専 門 病 院 | 安全を重視した質の高い医療 |
| 2 教 育 | 教育内容の充実が最大目標の一つ |
| 3 地 域 連 携 | 相互支援に基づいた地域医療連携 |
| 4 効率的な病院経営 | 独善に陥らない標準的な経営と改善努力 |
| 5 働きやすい病院 | スタッフの満足度が高い労働環境 |

*平成24年4月改定



<総 括>

こども病院は、昭和52年度の開院以来、静岡県の地域医療、小児医療に貢献するという設立趣旨に則り、高度かつ先進的な医療を実践してきた。

現在では、県内小児医療の中核病院として、循環器疾患医療、小児救急医療、周産期医療、小児がん医療、児童精神科医療を中心に、すべての小児の健康問題に対応可能な小児専門総合医療施設として、質の高い医療を県民に提供している。

また、平成31年4月1日付けで、これまでの小児がん医療への取組みにより、厚生労働省から全国15施設の小児がん拠点病院の1つとして新たに指定された。拠点病院として、診療体制の整備、地域医療機関との連携、移行期医療への対応などさらなる機能強化を図っている。

令和元年6月から、老朽化していた本館のリニューアル工事が開始され、薬剤部門、放射線部門、検査部門の機能向上と劣化改修工事を行い、ランドリーの移転により患者アメニティ（コンビニエンスストア）を整備し、令和3年3月に完成した。

令和2年4月には、静岡県からの受託により「移行期医療支援センター」を設置し、全国的に課題となっている成人移行患者への支援について検討を開始、成人移行外来の設置などの準備を進めている。

令和3年3月に南海トラフ地震事業継続計画（BCP）を策定した。今後、南海トラフ地震事業継続計画（BCP）に基づく訓練等を実施していく。

3 県民に対して提供する医療サービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

(1) 医療の提供

ア 総合病院

○ 業務実績を示す各種指標

- 入院延患者数及び病床稼働率は、平均在院日数の短縮等の影響により計画値を下回ったが、入院単価は、計画値を上回った。
また、外来延患者数は、計画値を下回ったが、外来単価は、計画値を上回った。
- 入院単価の主な増加要因は、施設基準の新規取得等の他、心臓血管外科や循環器内科を中心とした診療内容の高度化、DPC入院期間Ⅱ以内の退院率向上、DPC副傷病名付与率向上等が挙げられる。
また、外来単価の増加要因は、外来化学療法件数の増加、高額薬剤（がん治療薬：オプジーボ、アバスチン等）の使用等、高度医療に取り組んだ効果によるものである。

令和2年度 業務量及び単価等年間実績

区分			年度計画	年間実績	増減	達成率(%)
入院	一般病床	入院延患者数 (人)	227,132	198,075	▲29,057	87.2
		病床稼働率 (%)	94.0	84.8	▲9.2	90.2
		平均在院日数 (日)		11.2		
	結核病床	入院延患者数 (人)	7,968	5,223	▲2,745	65.5
		病床稼働率 (%)	43.7	28.6	▲15.1	65.4
		平均在院日数 (日)		65.1		
患者1人1日当たり単価 (円)		82,060	86,891	4,831	10.5	
外来	外来延患者数 (人)	471,761	425,092	▲46,669	90.1	
	患者1人1日当たり単価 (円)	22,044	23,331	1,287	105.8	

※患者1人1日当たり単価は、税込金額(調定額ベースで算定)。病床稼働率は、一般病床数で算定、結核病床は50床で算定

- 紹介率及び逆紹介率は計画値を上回った。今後も病診・病病連携の推進に努める。

令和2年度 紹介率・逆紹介率年間実績

(単位：%)

区分	年度計画	年間実績	増減
紹介率	90以上	93.8	+3.8
逆紹介率	175以上	195.4	+20.4

※紹介率・逆紹介率の算定方法は、用語解説を参照。

- 医療の提供については、循環器疾患及び、脳疾患に対する高度・専門医療、がん疾患に対する集学的治療及び終末期医療、高度救命救急センターとしての救急医療を主要事業の三本柱として重点的に取り組んでおり、平成31年3月の厚生労働省告示により、全国1,730のDPC病院の中で、引き続きDPC特定病院群（全国155病院が指定）を維持し、大学病院本院群と同等の高度医療及び医師研修を実施する病院として認められた。（県内では総合病院を含め6病院）
- 循環器疾患、脳疾患に対する医療については、先端医学棟3階に設置したCT・MRI・血管造影の3種類のハイブリッド手術室を活用し、最新の治療器材と鮮明な画像診断により、経カテーテル大動脈弁置換術（TAVI）、ステントグラフト内挿術、経皮的僧帽弁接合不全修復術（MitraClip）等の低侵襲で高度な手術を実施している。

令和2年度は、新たに心臓血管外科におけるダ・ヴィンチ使用手術（僧帽弁形成術）を開始した。これは県内で唯一の認定機関である。
- がん疾患に対する医療については、手術、化学療法、放射線治療等を効果的に組み合わせた高度な集学的治療を実施しており、当院に対して症例が集約化されている。

手術は、先端医学棟3階、4階に設置したハイブリッド手術室、内視鏡手術室、ロボット支援手術室を含む23室の手術室を効率的に運用し、手術件数を着実に伸ばしている。放射線治療は、先端医学棟1階に設置したリニアック3台を稼働し、強度変調回転放射線治療（VMAT）や脳定位放射線治療、体幹部定位放射線治療等の高精度な放射線治療を実施している。化学療法は、がん専門資格を有する腫瘍内科を始めとする医師、看護師、薬剤師等が連携し、安全かつ適切な治療を行っている。

また、令和元年9月に緩和ケアセンター（緩和ケアチーム）を新たに組織し、院内における緩和医療の提供体制を充実させるとともに、地域の医療機関等との定期的なカンファレンスを通じて連携強化に取り組んでいる。

なお、令和2年3月27日付けで、各医療圏において1施設のみが指定される地域がん診療連携拠点病院（高度型）に指定された。
- 救急医療については、高度救命救急センターとして重症熱傷、重症外傷、急性中毒等の重篤な救急患者の受入を行っている。また、平成26年6月にドクターカーを導入し、救命救急センターのスタッフが災害や事故の現場に急行又は搬送途中の救急車とドッキングして治療を開始することにより、救命率の向上に繋がっている。
- 新型コロナウイルス感染症については、院内検査及び患者受入体制を構築した。新型コロナウイルス感染症の治療に迅速に対応するため、令和2年4月から、本館6階の一般病棟20床を緊急的に使用した。その後、療養環境と治療環境の充実を図るため、本館3階に陰圧病床2床、個室4床を含む18床の専門病棟を整備し、令和2年9月から運用を開始した。令和3年1月には、更なる感染拡大に対応するため、本館6階に透析装置を有する27床の専門病棟を整備し、患者受入体制の強化に努めた。
- 結核病棟については、結核病床を有する病院の多くが新型コロナウイルス感染症病床へ切り替える状況だが、総合病院においては50床を維持し、県内における結核患者の8割以上を受入可能な体制を整えている。
- 施設整備については、先端医学棟1階へ移設した中央滅菌材料室（本館2階）の跡地に外来化学療法センターをリニューアル整備した。病床数は40床（ベッド22床、リクライニングシート18床）とし、令和2年8月から運用を開始した。また、本館2階へ移設した外来化学療法センター（北館1階）の跡地に高度救命救急センターをリニューアル整備し、令和3年1月から運用を開始した。

【外来化学療法センター】



【高度救命救急センター】



イ こころの医療センター

○ 業務実績を示す各種指標

- 延患者数については、入院、外来ともに計画を下回った。単価についても、入院、外来ともに計画を下回っている。

令和2年度 業務量及び単価

区 分		年度計画	年間実績	増減	達成率(%)
入 院	入院延患者数 (人)	55,498	53,246	▲2,252	95.9
	入院患者1人1日当たり単価 (円)	25,102	24,814	▲288	98.9
	平均在院日数 (日)		110.6		
	病床稼働率 (%)	88.4	84.8	▲3.6	95.9
外 来	外来延患者数 (人)	40,322	37,285	▲3,037	92.5
	外来患者1人1日当たり単価 (円)	6,523	6,420	▲104	98.4

※ 患者1人1日当たり単価は、税込金額(調定額ベースで算定)。平均在院日数は、医療観察法病床を除いて算定。病床稼働率は、172床で算定。

- 紹介率については、計画を下回ったが、逆紹介率は計画を上回った。今後も地域の医療機関や行政機関と協働し紹介率や逆紹介率の向上に努めていく。

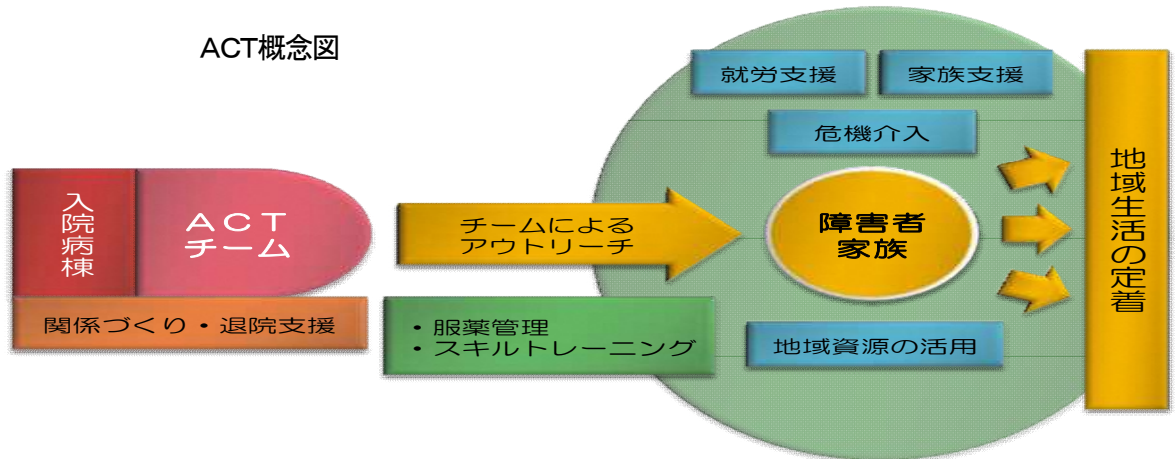
令和2年度 紹介率・逆紹介率年間実績

(単位：%)

区 分	年度計画	年間実績	増 減
紹 介 率	57.0	51.2	▲5.8
逆 紹 介 率	30.0	30.1	0.1

- 救急・急性期を中心とした診療体制の整備を図るとともに、包括的在宅医療支援体制モデルの構築や精神科救急相談体制の整備など、退院後の在宅支援を行うシステムを構築することで、「早期に集中的治療を行い、早期に社会復帰する」という体制づくりを継続して進めた。
- 先端薬物療法(クロザピン)や高度な治療法である修正型電気けいれん療法(m-ECT)の実施など、医療水準の向上と重症患者の病状改善に積極的に取り組んだ。
- 退院後の安定した地域生活の維持、再入院の防止に向け、心理・社会的治療の一環として、患者に対する心理教育・家族教室に積極的に取り組んだ。
- 包括的在宅ケア(ACCT)チームによる退院支援と手厚い24時間365日サポート体制による退院後の地域生活支援モデルの構築を進めた。
- 新型コロナウイルス感染症に関しては、県の要請により病床を4床(うち2床をスタッフ用)整備しており、東部保健所管轄の措置患者の受入れにも対応した。

ACT概念図



- ・ 県内唯一の医療観察法指定入院医療機関として本県及び他県関係の入院処遇対象者を受け入れており、機能の充実を図り、地域完結型の医療環境の形成を進めている。
- ・ 新型コロナウイルス感染症に関しては、県の要請により病床を4床（うち2床をスタッフ用）整備しており、東部保健所管轄の措置患者の受入れにも対応した。

ウ こども病院

○ 業務実績を示す各種指標

- ・ 入院については、延患者数は計画を下回ったものの、単価については前年度を上回った。
- ・ 外来については、延患者数は計画を下回ったものの、単価については前年度を上回った。

令和2年度 業務量及び単価等年間実績

区 分		年度計画	年間実績	増減	達成率(%)
入 院	入院延患者数(人)	77,212	65,681	▲11,531	85.1
	入院患者1人1日当たり単価(円)	96,675	102,820	+6,145	106.4
	平均在院日数(日)		9.3		
	病床稼働率(%)	78.1	66.4	▲11.7	85.0
外 来	外来延患者数(人)	113,916	103,773	▲10,143	91.1
	外来患者1人1日当たり単価(円)	13,545	15,550	+2,005	114.8

※患者1人1日当たり単価は、税込金額（調定額ベースで算定）。平均在院日数は、NICU、GCU、MFICU、PICU、精神科、短期3を除いて算定。病床稼働率は271床で算定。

- ・ 紹介率・逆紹介率ともに計画を下回った。今後とも病診連携や病病連携を推進していく。

令和2年度 紹介率・逆紹介率年間実績

(単位：%)

区 分	年度計画	年間実績	増減
紹介率	94.0	90.7	▲ 3.3
逆紹介率	53.0	44.8	▲ 8.2

- ・ 全国初の小児循環器集中治療専門医を配置したCCU、カテーテル治療や遠隔エコー診断等の先進的治療など、循環器疾患に対する高度先進的医療の提供に努めている。
- ・ 自治体立病院では全国初、小児専門病院では全国2番目となる小児用補助人工心臓を導入しており、心臓移植が必要な小児患者の治療を移植直前まで可能とする体制を整備している。
- ・ 総合周産期母子医療センターの指定を受け周産期医療の中核を担い、ハイリスク胎児・妊婦、新生児に高度な先進的治療を提供している。

- ・平成31年4月には、これまでの小児がん医療への取組みが評価され、厚生労働省から全国15施設の小児がん拠点病院の1つとして新たに指定され、小児がん相談室の設置や、AYA世代患者への研修会開催等により更なる支援体制の充実を図った。
- ・令和元年12月には、がんゲノム医療連携病院となり、がん診療におけるゲノム検査を実施している。
- ・小児救命救急センターの指定を受けている小児集中治療センター（PICU）と小児救急センター（ER）を中心に、24時間365日を通して、初期救急を含めた小児救急患者を受け入れている。
- ・厚生労働省の「子どもの心の診療ネットワーク事業」に参画し、ネットワーク構築のため学校・地域との連携強化に努めるなど、県内の児童精神科医療における中核的な機能を発揮している。
- ・新型コロナウイルス感染症への対応については、県から重点医療機関に指定されており、施設面でPICUにおいて4床受入れ体制を確保したほか、陰圧装置なども整備し、入館者に対する問診・検温を実施するなど、院内感染対策も講じている。

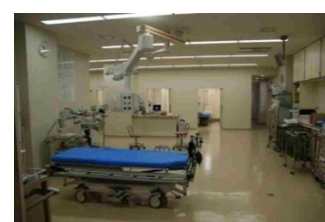
救急の体制



ドクターヘリ



ドクターカー



小児救急センター

(2) 医療従事者の確保及び質の向上

ア 総合病院

- ・医療技術者の研修については、研修医の海外研修への派遣や看護師の認定看護師研修への派遣、県立大学との共同研究等により、県立病院に相応しい医療技術者の育成に努めている。また、先端医学棟稼働に伴い、循環器病センター6階から先端医学棟2階へ拡張移転したメディカルスキルアップセンターにおいては、模擬病室の設置や各種高度なシミュレーターの導入により、院内外の多くの医療従事者に利用されており、医療の質の向上に寄与している。
- ・国際交流では、友好協力協定及び覚書を締結している中国浙江省の7医院からこれまでに研修生10人(医師)を受け入れている。また、令和元年10月、浙江中醫薬大学附属第二医院と研究友好協力に係る覚書を締結したほか、JICA研修生を受け入れている。
- ・令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により派遣研修及び相互訪問は中止となったが、消化器内科、乳腺外科がオンラインで浙江省の学会に参加した他、浙江省衛生健康委員会を通じて機構と友好協力協定及び覚書を締結する浙江省人民医院、浙江大学医学院附属邵逸夫医院、浙江大学医学院附属兒童病院、浙江中醫薬大学附属第二医院及び過去に機構で研修を行った研修生65名から医療物資の支援を受けた。

イ こころの医療センター

- ・医療技術者の研修については、認定看護師研修の派遣等、精神医療の向上に資する人材の育成に努めている。特に認定看護師については、6名の精神科認定看護師等が在籍し、医療の質の向上に貢献している。

ウ こども病院

- ・専門家を招聘してセミナーや研修会を定期的で開催するとともに、海外研修や認定看護師研修等に職員を積極的に派遣するなど、院内外の研修会等を通じて病院全体の医療技術の向上に努めている。
- ・国際交流においては、友好協力協定をしている、マレーシア国立循環病センター、浙江大学附属兒童医院、深セン市小児病院との間で、診療支援、医師・看護師の研修派遣・受入れ等、積極的な交流を例年行っているが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響で中止した。

(3) 医療に関する調査及び研究

- ・ 先端医学棟5階に設置したリサーチサポートセンターを活用し、医師が診療業務をしながら臨床研究に取り組んでいる他、きこえとことばのセンター（静岡県乳幼児聴覚支援センター）では乳幼児期の難聴や人工内耳の装用による脳の発達のメカニズムに関する研究を実施した。
- ・ 県民の健康寿命延伸のため、医療ビッグデータの活用に関する研究、効果的な健康増進施策・疾病予防対策のための疫学研究、ゲノムコホート研究を3本の柱とする社会健康医学研究を実施した。
- ・ 研究の推進、人材の育成、成果の還元の拠点となる社会健康医学大学院大学の開学に向け、リサーチサポートセンターを拠点に、研究員の確保や機器整備等、研究体制の強化に取り組んだ。
- ・ 令和2年1月、研究の質の更なる向上を図るため、慶應義塾大学院医学研究科との連携協力に関する協定を締結した。
- ・ 効率的な病院運営のため、診療情報（DPCデータ）に基づく症例分析を行い、医局会においてDPC入院期間Ⅱ以内での退院状況や副傷病名の付与率向上等に係る説明と協力依頼により、平均在院日数の短縮やDPCコーディングの適正化に取り組んだ。

【医学研究奨励の内訳】 令和2年度

病 院	研 究 課 題	部 署	構 成 人 数
総 合	アルドステロン産生腺腫における体細胞遺伝子変異の検討	高血圧研究部	4
	静岡県成人先天性心疾患レジストリー作成に関する研究	成人先天性心疾患診療科	3
	日本の集中治療における再入院のリスクを上昇させる因子についての研究	集中治療科	4
	開心術後の mBCA を用いた体液量変化の測定について	心臓血管外科	2
	ヒドロコルチゾン含有オキシテトラサイクリン塩酸塩軟膏による抜歯後の不快症状緩和に関する臨床学的検討	歯科口腔外科	5
	ARMC 5 遺伝子異常症の病態解明	遺伝研究部	1
	全身性エリテマトーデスの個別化医療を目指したゲノム解析	免疫研究部	2
	Kallmann 症候群の新規原因遺伝子の同定とその発症機構のゲノム科学的研究	糖尿病・内分泌内科	3
	内分泌疾患におけるオキシトシンの臨床応用への可能性	糖尿病・内分泌内科	2
	消化器外科周術期菌血症の原因微生物と臨床所見の後方視的検討	消化器外科	1
	黄色ブドウ球菌における TSST-1 産生制御機構の解明	消化器外科	2
	頚椎椎間板ヘルニア／頚部脊柱管狭窄症合併例に対する後方アプローチによる一期的手術に関する検討	脳神経外科	5
	紙巻および加熱式タバコ禁煙による心血管バイオマーカーに対する影響の前向きコホート研究	臨床研究部	3

病 院	研 究 課 題	部 署	構成人数
総 合	Stage II、III進行食道癌患者の術前化学療法期間の骨格筋量の変化が、術後合併症の発生率に与える影響に関する後方視的研究	消化器外科	6
	腹腔鏡下結腸癌手術における体腔内吻合	消化器外科	4
	院外心停止患者における頭部CTを用いた灰白質・白質のCT値(GWR:Gray-white matter ratio)の検討	救命救急科	4
	重症喘息患者における治療応答性予測マーカーの構築	呼吸器内科	3
	性腺機能低下症例における血中キスペプチンとオキシトシン濃度の測定	糖尿病内科	5
	食道癌に対する放射線化学療法後の総リンパ球数と予後の関連についての検討	消化器外科	6
	セロタイプ1 HCV 患者への実臨床下における DAAs の効果に関する後ろ向き多施設共同試験	薬剤部	6
	アベマシクリブによる下痢への影響因子に関する検討	薬剤部	5
	CKD 合併がん患者におけるデノスマブの安全性に関する多施設共同研究	薬剤部	6
	全人工股関節置換術及び全人工肩関節置換術後患者の初回離床トライアル時の術後悪心・嘔吐 (PONV) に影響する実態調査	看護部	3
	フリースタイルリブレ®を導入した患者の使用上の安全性と有効性	看護部	1
	地域医療支援病院の新卒看護師の職場適応の特徴とその要因	看護部	2
	脊椎手術患者におけるアレンベッド®使用による体温低下発生率とその予防一広範囲に体表面が露出する腹臥位術中の保温方法の検証一	看護部	2
	高度腎機能障害患者に対するセルフケア能力および病気の不確かさへの看護支援の評価	看護部	2
	終末期がん患者の在宅療養に向けた退院支援の実践状況と看護師の倫理的ジレンマの関連性	看護部	2
	看護師のレジリエンスと倫理的行動の関連性	看護部	2
	日常生活自立度の低い高齢入院患者に対する在宅退院支援の実践状況と看護師の専門職的自律性の関連性	看護部	2
	計	30	98
	こころ	高齢者領域にかかる支援者についての文献的研究 －「職務満足」「成長」「働きがい」「やりがい」という視点から－	医療部
計		1	1

病 院	研 究 課 題	部 署	構成人数
こども	先天異常症候群データベース (POSSUM) を用いた臨床検討	遺伝染色体科	1
	体位変換MRIによる二分脊椎症例における脊髄係留評価の研究	脳神経外科	4
	小児患者における大腸カプセル内視鏡検査に関する前向き観察研究	小児外科	4
	先天性上部消化管閉鎖における羊水中の膵酵素、胆汁酸濃度と臍帯潰瘍との関連についての検討	産科	5
	子宮頸管粘液を用いての絨毛膜下血腫の予後判定に関する研究	産科	4
	1歳未満の患児に対する腹腔鏡下鼠径ヘルニア根治術 (LPEC法) の治療成績	小児外科	8
	気管切開および在宅人工呼吸器装着の重症心身障害児における在宅維持期の呼吸機能	リハビリテーション室	7
	マルチパラメーターフローサイトメトリーでのB前駆細胞表面マーカーの解析	検査技術室	13
	先天性心疾患における房室弁弁葉にかかる応力の解明:シミュレーションを用いた新しい評価法の検討	循環器科	6
	静岡県立総合病院・静岡県立こども病院・リサーチサポートセンターを中心とした成人先天性心疾患レジストリー作成のための調査	心臓血管外科	5
	仮想現実 (VR)、拡張現実 (AR)、複合現実 (MR) の頭蓋顎顔面領域手術への応用	形成外科	2
	家族支援の充実に向けた北2病棟の新生児ケア・マニュアル活用	看護部	8
	クロスミキシングテストを臨床に活かそう ー 少ない検体を有効活用! ー	検査技術室	8
	小児分野のMSWの地域連携力の検討 ー 一般のMSWとの比較から ー	地域医療連携室	1
	計	14	76

(4) 医療に関する地域への支援

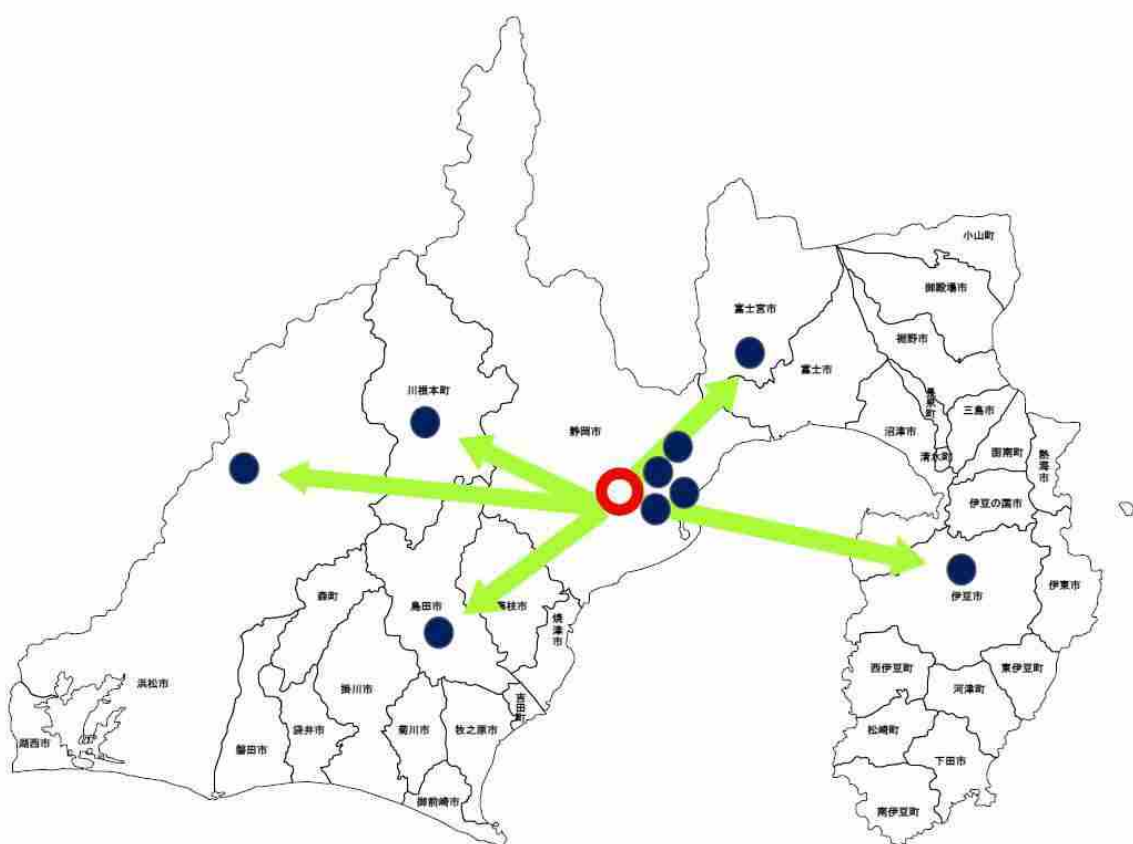
ア 総合病院

地域医療の支援については、平成19年に地域医療支援病院として承認されており、医師会・歯科医師会とも連携し、紹介患者への医療の提供、救急患者の受入等の取組を通して地域医療の確保に努めた。

県立病院医師交流制度等に基づき9医療機関等に対して延687人の医師派遣を行うとともに、CT・MRIの高度医療機器の共同利用を推進した。

また、平成22年度総務省委託事業である地域ICT利活用広域連携事業により開始した「ふじのくにバーチャル・メガ・ホスピタル」は順調に拡大しており、令和2年3月末現在、開示施設は19病院、参照施設は123施設となった。今後も各地域の医師会と協働し、ネットワークの更なる推進に努める。

令和2年度 県立総合病院の医師派遣



イ こころの医療センター

地域医療の支援については、医師、看護師の講演会等への講師派遣等に取り組んだほか、医療観察法における鑑定の要請に協力する等、県内精神医療の中核病院としての役割を果たしている。

ウ こども病院

- ・ 小児科の基幹研修施設として、新専門医制度に対応した研修を行い適切に対応している。
- ・ 地域医療支援病院としての役割を果たすため、医師不足が顕著な公的病院や急病センター等計9の医療機関等に対して、延474人の医師を派遣した。
- ・ 映像通信システムを通じて、浜松医科大学やマレーシア国立循環器病センターなどと定期的に症例検討会を実施している。また、県内4病院と連携して心エコー画像の遠隔診断を行うなど、映像情報を活

用した地域医療機関等との連携及び支援を行っている。

- ・ 児童精神科医療におけるネットワーク構築のため、小中学校教諭を対象とした精神保健講座や児童養護施設の巡回相談を実施するなど、学校・地域との連携強化に努めている。
- ・ 県内の医師や看護師を対象とした症例検討会を開催するなど、地域の周産期医療の質向上と他医療機関との連携体制を強化している。
- ・ 地域の救急医療機関や消防機関を対象とした研究会を開催するなど、小児救急医療の体制強化を図っている。

(5) 災害等における医療救護

- ・ 災害拠点病院は、災害時に多発する重篤救急患者を受け入れ、自己完結型の医療救護チームを被災地に派遣し、地域医療機関への応急用資器材の貸し出し機能を有する病院であり、県下 23 病院が指定されている。
- ・ 総合病院は、基幹災害拠点病院に指定されており、災害拠点病院の機能をさらに強化した要員の訓練や研修機能を有し、災害医療に関して県の中心的役割を果たす病院であることが求められている。
- ・ 総合病院とこども病院は、静岡市長から「静岡県医療救護計画」に基づき、救護病院（重症患者及び中等症患者の処置及び収容を行う病院）に指定されているほか、総合病院は、被ばく医療について、二次被ばく医療機関に指定されている。
- ・ 防災計画等の取組については、災害対応マニュアルの見直しを進め、東日本大震災以降の国の施策の見直しなどに対応した改訂を行うとともに、総合病院では、災害発生時の断水に備えるため、地下水を上水として活用できるような対策を実施した。改訂したマニュアルに基づき訓練を実施した。
- ・ 総合病院における被ばく医療については、関係機関が主催する講習会等の受講等、施設要件を満たすための取組みを行い、平成 30 年 10 月に原子力発電所の重大事故に備えた原子力災害拠点病院として静岡県から指定を受けた。
- ・ こころの医療センターでは、6 病院（宮城県立精神医療センター、千葉県精神医療センター、大阪府立精神医療センター、岡山県精神医療センター、島根県立こころの医療センター、山口県立こころの医療センター）と災害時における自治体精神科病院の相互支援に関する協定を締結している。また、災害発生直後に精神科医療における支援が可能な D P A T（災害派遣精神科医療チーム）を保有し、災害発生時に被災地への D P A T の派遣や県の要請に基づく支援等を実施する体制を整備している。
- ・ こころの医療センターは、令和 3 年 2 月 1 日に、県内初の、診療機能、一時的避難所や D P A T 派遣機能を有した、災害拠点精神科病院としての指定を受けた。
- ・ こども病院では、令和 3 年 3 月に南海トラフ地震時行継続計画（BCP）を策定し、あわせて地震防災マニュアルの見直しを行った。

4 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

(1) 効率的な業務運営体制の強化

ア 機構全体

- ・ 理事会、運営会議、総務・経営担当課長会議を、8 月を除く原則毎月開催し、意思決定の迅速化に努めている。なお、緊急事態宣言が発令されていた 5 月については新型コロナウイルス感染症対策のため中止した。
- ・ 医療機器の購入について、購入と複数年分の保守を一括で入札することで、全体での経費削減に取り組んだ。
- ・ 地方独立行政法人制度のメリットを活かして契約の複数病院一括化及び複数年契約化を進める一方で、契約によっては分割して発注することによって競争性を高めるなど、柔軟に契約方法を変更することで経営改善を推進した。

- ・ 経費の節減のみならず、モニタリング制度（インセンティブ（契約期間の延長）の付与や業務内容が適切ではない場合の減額等が課せられている。）の適用などにより、業務の質の向上も図った。
- ・ 業務改善の推進として、機構の業務改善運動推進制度を設置しており、業務改善に積極的に取り組む組織風土の醸成に努めた。なお、令和2年度は、機構内において新型コロナウイルス感染症対策について様々な取組が取られている。このため、当該関連業務への顕著な取組に限定して表彰を行った。

イ 総合病院

- ・ 平均在院日数の短縮に向け、各診療科においてD P C入院期間Ⅱ以内での退院を促進し、効率的な病棟運営に努めた。
- ・ 先端医学棟3階、4階に新設した22室を含む23室の手術室とH C U20床の一体的かつ効果的な運用に努めた。
- ・ 先端医学棟3階、4階に設置したハイブリッド手術室、内視鏡手術室、ロボット支援手術室を含む23室の手術室とH C U20床の一体的かつ効果的な運用に努めた。
- ・ 入退院センターによる入院前から退院後までの一貫したサポート（入院前問診・オリエンテーション等）により、患者満足度向上と病棟看護師の業務量軽減を図っている。令和2年度は新型コロナウイルス感染症専門病棟の運営や耐震補強を含む病棟改修工事等の状況を踏まえながら、空床情報の一元管理と適切なベッドコントロールを行った。
- ・ 重症系病棟の稼働率向上に向けて、医師が中心となり効率的な病棟運営に努めた。
- ・ 自治体共済会MR Pベンチマークシステムの活用及び共同購入組織「一般社団法人日本ホスピタルアライアンス（略称：NHA）」への加盟により、薬品、診療材料に係る価格交渉や品目の切り替えを推進し、薬品費、診療材料費の削減に努めた。

ウ こころの医療センター

- ・ 精神科医療に特化した平成28年2月に導入した電子カルテの活用により、情報の共有によるチーム医療の推進、並びに業務の効率化・省力化を進めた。
- ・ 毎月の経営戦略委員会や管理会議において病院の経営状況を報告するなど、院内で経営に関する情報を共有することにより、職員全体の経営意識の向上を図った。

エ こども病院

- ・ 医事委託業者と共同で定期的に勉強会等を実施し、各診療科との連携を密にして確実に診療報酬請求を行うなど、診療収益の増加に努めた。
- ・ 診療材料の単価、品目、業者等の見直し、消耗品の節約、委託契約の業務内容の見直し、職員の時間外勤務の適正化等により、経費削減に努めた。また、令和元年10月から共同購入の取組開始を開始し、汎用材料の価格削減を図っており、採用品の増加を進め、参加分野の拡大を検討した。
- ・ 毎月の管理会議において病院の経営状況を報告するなど、院内で経営に関する情報を共有することにより、職員全体の経営意識の向上を図った。

(2) 事務部門の専門性の向上

- ・ 事務職員基礎研修、会計研修、労務管理研修等を実施し、業務関連知識の向上を図った。
- ・ 診療情報管理士資格の取得支援制度を設け、資格者の増員を図った。
- ・ 業務の標準化を図るため、事務部門の業務マニュアル整備・活用に向けた取組を実施し、あわせて、院内コミュニケーションシステム上に集約したマニュアルを公開し、情報の共有化を図った。

(3) 収益の確保と費用の節減

- ・ 薬品費や診療材料費については、競合する薬剤を引き合いに出した交渉により薬品費の大幅な値引を実現

したほか、診療材料の共同購入による価格交渉など経費の節減に取り組んだ。また、SPDが期限を確認し、期限切迫品の表示や使用頻度の高い部署へ移管を行うことにより、多くのロスを防ぐことができた。

項目別業務実績評価

<評価凡例>
 S 計画に対し十分に取組み、顕著な成果が得られている。 A 計画に対し十分に取組み、成果が得られている。
 B 計画に対し十分に取組んでいる。 C 計画に対する取組みは十分ではない。

中期計画

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績	令和2年度実績 自己評価																													
						説明																													
第2 県民に対して提供する医療サービスその他の業務の質の向上に関する事項	第2 県民に対して提供する医療サービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置	第1 県民に対して提供する医療サービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置																																	
1 医療の提供 医療機関として求められる基本的な診療理念や県立病院が担う医療を明確にし、他の医療機関との機能分担や連携のもと、医療の質の向上に努め、患者や家族、地域から信頼される医療を提供すること。	1 医療の提供 県立病院機構の職員は、県立病院が担う役割と責任を認識するとともに、医療機関に求められる基本的な診療理念を理解し、医療の提供に当たってはそれを実践する。	1 医療の提供																																	
(1) 基本的な診療理念 診療に当たっては、患者が最良の治療効果を得られるよう、患者との信頼関係の構築に努め、科学的根拠に基づく最適な医療を患者への十分な説明と同意のもとに安全に提供すること。	(1) 基本的な診療理念 診療に当たっては、患者自らが選択し納得できるよう、患者への十分な説明など、患者との信頼関係の構築に努め、科学的根拠に基づく医療を安全に提供するため、医療技術の向上、チーム医療の推進、医療安全対策の充実などに取り組む。	(1) 基本的な診療理念 各県立病院は、患者が選択し納得できる最良の医療を提供するため、次の事項等に取り組む。 ①患者への十分な説明と同意の徹底 ②医療技術の向上 ③チーム医療の推進 ④医療安全対策の充実 ⑤患者満足の上	1	①患者の適切な医療が受けられる権利を尊重し、セカンドオピニオンを実施する。	セカンドオピニオン数 (単位:件) <table border="1"> <tr><th>区分</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th></tr> <tr><td>総合</td><td>112</td><td>114</td><td>115</td><td>90</td><td>112</td><td>114</td></tr> <tr><td>こころ</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td></tr> <tr><td>こども</td><td>63</td><td>39</td><td>58</td><td>58</td><td>48</td><td>74</td></tr> </table>	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	総合	112	114	115	90	112	114	こころ	-	-	-	-	-	-	こども	63	39	58	58	48	74	A	患者の適切な医療が受けられる権利を尊重し、セカンドオピニオンを実施した。
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度																													
総合	112	114	115	90	112	114																													
こころ	-	-	-	-	-	-																													
こども	63	39	58	58	48	74																													
			2	①②③運用実績などのエビデンスに基づくクリニカルパスの新規作成や見直しを行う。	クリニカルパス管理委員会において、新規作成及び修正に係る審議、承認を行った。 クリニカルパスの新規作成、適用率等実績 <table border="1"> <tr><th>区分</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th></tr> <tr><td>新規作成(件)</td><td>18</td><td>16</td><td>15</td><td>34</td><td>9</td><td>23</td></tr> <tr><td>修正(件)</td><td>51</td><td>224</td><td>130</td><td>253</td><td>103</td><td>225</td></tr> <tr><td>適用率(%)</td><td>75.8</td><td>66.3</td><td>62.6</td><td>63.3</td><td>63.9</td><td>68.3</td></tr> </table>	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	新規作成(件)	18	16	15	34	9	23	修正(件)	51	224	130	253	103	225	適用率(%)	75.8	66.3	62.6	63.3	63.9	68.3	A	クリニカルパスに関する運用・管理について、医療の質の向上や業務の効率化に繋がるよう、医療従事者が定期的に議論を行い、クリニカルパスの新規作成や修正を適切に実施した。
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度																													
新規作成(件)	18	16	15	34	9	23																													
修正(件)	51	224	130	253	103	225																													
適用率(%)	75.8	66.3	62.6	63.3	63.9	68.3																													
			3	①②③入院における患者の負担軽減及び計画的でわかりやすい医療を提供するため、精神科に適したクリニカルパスを作成し導入する。	令和2年度末現在稼働クリニカルパス 4件 (m-ECT、転倒転落、鑑定入院、クロザピン) 稼働クリニカルパス件数 (単位:件) <table border="1"> <tr><th>区分</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th></tr> <tr><td>稼働クリニカルパス</td><td>4</td><td>4</td><td>4</td><td>5</td><td>5</td><td>6</td></tr> </table>	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	稼働クリニカルパス	4	4	4	5	5	6	A	クリニカルパスについては、導入が可能なものに関して、導入済みである。新規クリニカルパス作成、既存クリニカルパスの見直しを行い、患者の負担軽減に努め、より良い医療を提供している。														
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度																													
稼働クリニカルパス	4	4	4	5	5	6																													
			4	①②③入院における患者の負担軽減及び計画的でわかりやすい医療を提供するため、小児科に適したクリニカルパスを作成し導入する。	稼働クリニカルパス件数 (単位:件) <table border="1"> <tr><th>区分</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th></tr> <tr><td>稼働クリニカルパス</td><td>46</td><td>49</td><td>49</td><td>51</td><td>51</td><td>52</td></tr> </table>	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	稼働クリニカルパス	46	49	49	51	51	52	A	クリニカルパスについては、導入が可能なものに関して、積極的に導入し、新規クリニカルパス作成、既存クリニカルパスの見直しを行い、患者の負担軽減に努め、より良い医療を提供している。														
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度																													
稼働クリニカルパス	46	49	49	51	51	52																													

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績	令和2年度実績 自己評価																																																																						
			5	③チーム医療を推進し、多職種による病院横断的な活動を通して、質の高い医療を提供する。	<p>各病院</p> <p>チーム医療の推進（コロナウイルスの開催）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>1,120</td> <td>1,290</td> <td>1,341</td> <td>1,154</td> <td>904</td> <td>1,245</td> </tr> <tr> <td>ニニホ</td> <td>73,747</td> <td>74,929</td> <td>75,792</td> <td>93,149</td> <td>92,879</td> <td>86,399</td> </tr> <tr> <td>ニドモ</td> <td>1,120</td> <td>1,290</td> <td>1,341</td> <td>1,154</td> <td>904</td> <td>1,245</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>75,987</td> <td>76,509</td> <td>77,434</td> <td>95,457</td> <td>94,687</td> <td>88,889</td> </tr> </tbody> </table> <p>チーム医療に対する診療報酬上の評価加算の状況 (単位：千円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>1,120</td> <td>1,290</td> <td>1,341</td> <td>1,154</td> <td>904</td> <td>1,245</td> </tr> <tr> <td>ニニホ</td> <td>73,747</td> <td>74,929</td> <td>75,792</td> <td>93,149</td> <td>92,879</td> <td>86,399</td> </tr> <tr> <td>ニドモ</td> <td>1,120</td> <td>1,290</td> <td>1,341</td> <td>1,154</td> <td>904</td> <td>1,245</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>75,987</td> <td>76,509</td> <td>77,434</td> <td>95,457</td> <td>94,687</td> <td>88,889</td> </tr> </tbody> </table>	区 分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	総合	1,120	1,290	1,341	1,154	904	1,245	ニニホ	73,747	74,929	75,792	93,149	92,879	86,399	ニドモ	1,120	1,290	1,341	1,154	904	1,245	計	75,987	76,509	77,434	95,457	94,687	88,889	区 分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	総合	1,120	1,290	1,341	1,154	904	1,245	ニニホ	73,747	74,929	75,792	93,149	92,879	86,399	ニドモ	1,120	1,290	1,341	1,154	904	1,245	計	75,987	76,509	77,434	95,457	94,687	88,889	<p>令和2年度は、SARS-CoV-2(以下、「新型コロナウイルス」という。)感染症への対応のため、多職種による院内感染対策のチームを創設し、感染防止の取組、情報収集などを担当した。</p> <p>また、総合病院では新型コロナウイルス感染症専門病棟の設置に伴い、各部署から医師、看護師などが派遣されるなど、多職種が対応に当たった。</p> <p>最良の医療を提供するため、診療科の枠を越えた多職種カンファレンスを実施した。</p> <p>特に総合病院では、精神科医師の兼任により、令和元年7月に精神科リエンチームの施設基準を取得した。多職種によるチーム医療を推進するとともに、診療報酬上の評価加算も高い水準で推移しており、収益面においても大きく貢献している。</p> <p>多職種による病院横断的な活動体制が上記の成果に結びついた。</p>
区 分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度																																																																						
総合	1,120	1,290	1,341	1,154	904	1,245																																																																						
ニニホ	73,747	74,929	75,792	93,149	92,879	86,399																																																																						
ニドモ	1,120	1,290	1,341	1,154	904	1,245																																																																						
計	75,987	76,509	77,434	95,457	94,687	88,889																																																																						
区 分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度																																																																						
総合	1,120	1,290	1,341	1,154	904	1,245																																																																						
ニニホ	73,747	74,929	75,792	93,149	92,879	86,399																																																																						
ニドモ	1,120	1,290	1,341	1,154	904	1,245																																																																						
計	75,987	76,509	77,434	95,457	94,687	88,889																																																																						
			6	④医療安全室及び感染対策委員会等を中心に、マニュアルの見直しや研修会を通じて院内感染防止対策・医療安全対策を実施する。	<p>各病院(企画)</p> <p>3病院で、10回の院内感染対策研修、26回の医療安全対策研修を行っている。安全・安心な医療の提供に対する職員への意識づけと、体制整備を行っている。</p> <p>医療安全対策、院内感染対策研修</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>ニニホ</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>ニドモ</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>	区 分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	総合	0	2	0	0	1	0	ニニホ	0	0	0	0	0	0	ニドモ	0	0	0	0	0	0	計	0	2	0	0	1	0	<p>各病院において感染対策委員会や医療安全委員会を行うほか、研修についても法定回数を上回る実績を積んでいる等、継続的な対策研修の実施体制が確立している。</p> <p>令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の院内感染対策として感染対策室を中心とした中核要員によるチームを創設し、感染防止の取組、情報収集などを担い、県との調整のうえ患者の受入を適切に行った。</p>																																			
区 分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度																																																																						
総合	0	2	0	0	1	0																																																																						
ニニホ	0	0	0	0	0	0																																																																						
ニドモ	0	0	0	0	0	0																																																																						
計	0	2	0	0	1	0																																																																						
			7	④⑤固定チームナーシングによる看護提供を行うことで、看護の継続性を図り、患者の安心を高める。	<p>総合</p> <p>「患者様の声」の推移(看護師) (単位：件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ご意見</td> <td>72</td> <td>57</td> <td>92</td> <td>85</td> <td>81</td> <td>53</td> </tr> <tr> <td>感謝</td> <td>32</td> <td>37</td> <td>28</td> <td>29</td> <td>40</td> <td>34</td> </tr> </tbody> </table> <p>患者満足度調査 (単位：%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入院</td> <td>95.6</td> <td>97.8</td> <td>98.2</td> <td>98.9</td> <td>98.0</td> <td>98.2</td> </tr> </tbody> </table>	区 分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	ご意見	72	57	92	85	81	53	感謝	32	37	28	29	40	34	区 分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	入院	95.6	97.8	98.2	98.9	98.0	98.2	<p>令和2年度の「患者様の声」は、新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、面会制限を行ったため、件数は令和元年度実績を下回った。一方、看護師に対する感謝の割合は令和元年度実績を上回り、患者満足度も目標値を大幅に上回った。</p> <p>今後も寄せられた意見を参考に質の高い看護が提供できるよう努める。</p>																																			
区 分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度																																																																						
ご意見	72	57	92	85	81	53																																																																						
感謝	32	37	28	29	40	34																																																																						
区 分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度																																																																						
入院	95.6	97.8	98.2	98.9	98.0	98.2																																																																						